

来を担う若い人たちに戦争の悲惨さや平和の尊さを考え、理解を深めてもらうことを目的に、市内中学生の代表を8月5日から3日間、広島平和記念式典へ派遣しました。

5日には、平和記念公園の「原爆の子の像」に、市内の中学生が思いを込めて折った千羽鶴を奉納して、戦争で亡くなった方々のご冥福を祈りました。その後、原爆ドームや平和記念資料館を見学して、被爆の現実を学び、平和な世界の大切さについて考えました。

原爆投下から79年目を迎えた6日には、平和記念式典に参列し、子ども代表の小学生による「平和の誓い」からは、平和のために行動を起こすことがいかに大切かを学びました。夕方に行われた元安川での灯籠流しでは、平和への思いや原爆被害に遭われた方々への鎮魂を祈る言葉を灯籠に書き込みました。



平和への願い

私は、自分と同じ世代に原爆投下の日のことを伝えていかなければならないと思います、広島への派遣事業に参加しました。

平和記念資料館では、被爆者の言葉がつづられた展示を見て、人々の命を無差別に奪った原爆を憎く思いました。その他の展示も、思わず目をそむけてしまつほど悲惨なものでした。平和記念式典では、広島市長の「平和宣言」や広島市の子ども代表の「平和の誓い」などを聞いて、命と平和の尊さ、戦争の残酷さを感じることができました。今回、広島で感じた平和に対する強い思いを自分の言葉で語り、広められるように心がけたいです。



村上第一中学校
こばやし まさみ
小林 正美

多くを学んだ広島

今回の広島派遣に参加したこと、今まで自分が原爆について知っていたことがほんの一部の情報でしかないことに気づかされました。

平和記念資料館で強く印象に残ったのは、やはり被爆した方々の写真でした。肌がただれ、目が飛び出ている人々は、すべてを諦めているかのように見え、言葉が出てきませんでした。また、平和記念式典に参加したことで、核兵器の廃絶を訴え続けること、相手を尊重してお互いに認め合うことが何よりも大切だという思いになりました。

今、私にできることは、広島で学び、経験したことをできるだけ多くの人たちに広め、みんなで平和の尊さについて考えていくことだと思っています。



村上東中学校
わたなべ ゆま
渡邊 由茉



私たちの声で、平和な世界へ

広島平和記念式典へ市内中学生の代表を派遣

岡 学校教育課教育総務室（☎72-6882）

つながっていく未来

原爆ドームは保存工事が行われながらも、今日まで当時の形を残しており、原爆の悲惨さを肌で感じることができました。公園内の「原爆の子の像」に千羽鶴を奉納した際には、私たち以外にも何百もの千羽鶴が奉納されており、心が温かくなりました。

2日目に出席した平和記念式典では、広島市の小学6年生が「平和の誓い」で述べた「願っただけでは、平和は訪れませんが」という言葉が心に刺さりました。未来をよいものにするために、まずは今まで起こってしまった戦争や問題などに関心をもち、知ろうとすることから始めていきたいです。

変わらないもの

僕は今まで、原爆が落とされた事実を知っていても、そこにある多くの苦しみ、悲しみ、怒りを感じ取ることはできていませんでした。

平和記念資料館で見た数々の資料はまさに地獄でした。絶望に満ちた数々の「叫び」がありました。翌日に参列した平和記念式典でも、多くの「叫び」があり、全てが心に訴えかけるものでした。そして、これらの「叫び」は、平和な今を生きる自分たちへの「切なる願い」であり、多くの人々に伝えていかなければならないという心に気づきました。

今、当たり前前にある平和に感謝し、人とのつながりを大切にして助け合って生きていきたいです。



荒川中学校
いちのせ たかと
一ノ瀬 貴斗

広島で考えたこと

今回、広島に行き、原爆ドームや平和記念資料館を見学し、原爆がどれだけのエネルギーをもち、どれだけの被害を与えたのかが分かりました。被爆前は、とても発展した街だったのに、たくさんの命、人生、生活が無惨に崩れていったのだと思いました。

現在、科学技術はとてつもない速度で発達を続けています。しかし、これらの技術は誤った使い方をしてしまうと、人類自らを滅ぼしかねないところまで向かわせてしまっています。人類は、そんな危うさをもった科学技術をどのようにに使い、どのようにに人道を守るのかについて向き合い続けていく必要があると考えました。

平和を伝えてくれた広島

広島への派遣事業に参加して、8月6日が大切にされている意味や平和について考えることができました。

平和記念資料館では、どの展示品も戦争の恐ろしさが伝わり、衝撃的で思わず目を覆いたくなるようなものもありました。広島平和記念式典では、「平和宣言」や「平和への誓い」を聞き、私たちが広島に來た意味を改めて実感できました。

広島での出来事が二度と起こらないように、平和のために私たちが何ができるのかを考えなければなりません。そして、今平和であることを当たり前だと思わずに、1日1日を大切に過ごしていきたいです。



朝日中学校
すずき はの
鈴木 葉乃

3日間の訪問を終えて

平和記念資料館に入ってから最初に見たのは、原爆投下後の広島の様子でした。被害の規模はともかく、驚きと同時に恐怖でいっぱいになりました。被害を受けて、苦しむ人々の様子は地獄のようでした。

翌日の平和記念式典では、たくさんの人々の思いや誓いの言葉を聞きました。その中でも子ども代表の言葉に心を打たれました。国や自治体のリーダーの平和への誓いを聞くこともできて本当によかったです。

これから、当たり前前にある日常や小さな幸せにも感謝しながら、広島でしか体験できなかったことをいろいろ人に伝えて、平和のために貢献したいと思っています。



山北中学校
さいとう かなめ
斎藤 要人



岩船中学校
おだ ほだか
小田 帆高



神林中学校
うちやま さく
内山 朔